

授業概要

本演習では環境会計・経営に関連した卒業論文作成の準備を行います。春期は環境関連の基本書を輪読し、その概要をパラグラフライティングでまとめる練習をします。秋期は卒業論文の作成準備を行います。資料の収集方法から先行研究の検索を行いその鳥瞰図を作成してもらいます。その中から、①分かっていること、②分からないこと、③分からないことをあなたはどのようにするのか、これらを卒業論文にまとめます。

授業計画

第1回	ガイダンス、演習の概要説明	第16回	卒業論文の作成準備ガイダンス
第2回	持続可能社会	第17回	資料収集 日経 VS/CiNii 検索方法
第3回	人口、食糧、資源	第18回	先行研究 環境、会計、ESG 投資
第4回	貧困、格差、経済	第19回	先行研究 SDGs、共生、持続可能性
第5回	温暖化と低炭素社会	第20回	先行研究 鳥瞰図作成1
第6回	エネルギーと環境	第21回	先行研究 鳥瞰図作成2
第7回	生物多様性の意味	第22回	リサーチセッションと中心命題1
第8回	循環型社会、廃棄物	第23回	リサーチセッションと中心命題2
第9回	震災関連・放射性物質	第24回	研究対象企業の選定1
第10回	環境保全の取り組み	第25回	研究対象企業の選定2
第11回	環境影響評価	第26回	卒論の目次の作成1
第12回	企業の社会的責任	第27回	卒論の目次の作成2
第13回	環境マネジメント	第28回	卒論のテーマ報告会①概要説明
第14回	ISO14001	第29回	卒論のテーマ報告会②概要説明
第15回	課題レポート	第30回	卒論のテーマ報告会③概要説明
春期	定期試験	秋期	定期試験

到達目標

- 卒業論文作成の準備ができること。

履修上の注意

- 毎週、テキストに沿ったレジメを作成し、それによる発表とパラグラフライティングの練習を行います。
- 正課授業科目、春期「環境会計論」は必ず受講して下さい。
- パソコンのWord, Excel, PowerPoint, Outlook メールには、習熟していること。
- Outlook 予定表（カレンダー）などで日々の時間管理を徹底せよ。

予習復習

- 毎週、レジメの作成は宿題となります。

評価方法

- 授業中の発言や報告内容、課題レポート等で総合的に評価する。
- 授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

(参考図書)

- 東京商工会議所(2021)『環境社会検定試験 ECO 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター
- 倉島保美(2019)『スーパー・ラーニング 改訂新版 書く技術・伝える技術』あさ出版。

授業概要

本演習では、企業会計理論の学習を対象として、特に国際会計の全般的、基礎的把握に努めるとともに、各自の関心分野についての問題意識の形成、問題の構築、問題の分析を行う。特に、秋期の演習は、卒業論文の作成に備え、論文作成に必要な基礎（レジュメの書き方や発表の仕方）の取得も合わせて進める。

授業計画

春期では、国際会計の基礎的知識をマスターするために、関連資料を選定し輪読する。
 秋期では、各自が関心をもつテーマについて報告と討論を行う。
 また、各期3回以上のレポートの提出を求める。

第1回	国際会計の意義と研究領域	第16回	各自のテーマの報告と討論1
第2回	国際会計制度の沿革1 (IASC)	第17回	各自のテーマの報告と討論2
第3回	国際会計制度の沿革2 (IASB)	第18回	各自のテーマの報告と討論3
第4回	主要国の会計国際化1	第19回	各自のテーマの報告と討論4
第5回	主要国の会計国際化2	第20回	各自のテーマの報告と討論5
第6回	主要国の会計国際化3	第21回	各自のテーマの報告と討論6
第7回	IFRSの理論構造と特徴1	第22回	各自のテーマの報告と討論7
第8回	IFRSの理論構造と特徴2	第23回	各自のテーマの報告と討論8
第9回	IFRSの理論構造と特徴3	第24回	各自のテーマの報告と討論9
第10回	IFRSの要点解説 (B/S項目)	第25回	論文作成の基礎1
第11回	IFRSの要点解説 (B/S項目)	第26回	論文作成の基礎2
第12回	IFRSの要点解説 (B/S項目)	第27回	論文作成の基礎3
第13回	IFRSの要点解説 (P/L項目)	第28回	論文作成の基礎4
第14回	IFRSの要点解説 (P/L項目)	第29回	論文作成の基礎5
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期のまとめ

到達目標

- ・発表レジュメの作成及び発表能力の向上
- ・卒業論文作成の準備作業及びテーマの決定

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジュメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

第四次産業革命が進む中、私達人間の生活をより豊かなものにするため、世界中で様々なビジネスが創出され、進化し続けています。今後大規模な社会変革が予想されています。世界人口が増加の一途を辿り、高齢化が進展し、生活習慣病が死因の上位を占め、感染症が猛威を振るう中、『医、食、生』といったキーワードで、どのような産業や事業が関わっているかについて総合的に理解を深めることを本演習の目的とします。

授業計画

第1回	メーカー①：食品（調味料・冷凍食品）	第16回	保険②：損害保険
第2回	メーカー②：食品（食肉加工・即席めん）	第17回	流通①：専門店（ドラッグストア）
第3回	メーカー③：食品（菓子・牛乳・その他）	第18回	流通②：スーパー
第4回	メーカー④：飲料	第19回	流通③：コンビニエンスストア・ディスカウントストア
第5回	メーカー⑤：化粧品	第20回	情報・通信：インターネットサービス
第6回	メーカー⑥：生活用品	第21回	運輸：航空・鉄道・陸運
第7回	メーカー⑦：医薬品（外資系）	第22回	サービス①：フードサービス（外食）
第8回	メーカー⑧：医薬品（国内一般用医薬品）	第23回	サービス②：フードサービス（中食）
第9回	メーカー⑨：医薬品（国内ジェネリック医薬品）	第24回	サービス③：フードサービス（給食）
第10回	メーカー⑩：医薬品（国内創薬・医療用医薬品）	第25回	サービス④：アミューズメント
第11回	メーカー⑪：精密機器－医療機器	第26回	サービス⑤：テーマパーク
第12回	総合商社	第27回	サービス⑥：旅行・ホテル
第13回	専門商社①：食品	第28回	サービス⑦：教育
第14回	専門商社②：医薬品	第29回	サービス⑧：高齢者サービス
第15回	保険①：生命保険	第30回	不動産・建設・住宅

到達目標

- ・『医、食、生』それぞれのキーワードの特徴について理解できる。
- ・『医、食、生』に関連する業界について理解を深める。
- ・『医、食、住』の各キーワードが関連する企業について理解を深める。
- ・『医、食、住』の各キーワードにおいて求められる新たなビジネスの視点について考えられる。

履修上の注意

『医、食、生』に関するビジネスに関心を持っている学生の皆さんを歓迎します。

予習復習

専門用語が多いので、事前学習及び各単元後の復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

教科書は特に使用しません。必要に応じて指示し、必要な資料を配布します。

授業概要

ゼミのテーマ、専門分野は、多国籍企業、世界企業が行う国際企業経営の学習と研究です。企業が外国において現地企業などとの競争に打ち勝つためには、製品の開発、生産、販売のいずれにおいても、本国とは異なる現地市場の特性を踏まえて活動することが必要とされています。かつて世界各国で優位に立った日本企業が、この10年ほど、中国、インドなどの新興国市場でしばしば敗退している理由の1つは、現地の消費者などが求める製品を適切に市場に投入できていないことにあると言われています。

このゼミでは、春期は、主として、日本の大企業によるアメリカ、中国、東南アジアなどでの活動を、さまざまな資料、論文、報告書などに基づいて学習・研究します。秋期は、4年次の卒業研究（卒業論文）の執筆に向けて、研究テーマの設定、資料の収集と読解、卒業研究予備論文の作成・報告、を行います。

授業計画

第 1 回	ゼミの進め方—企業活動の国際化	第 16 回	ゼミの進め方—論文の作成とは
第 2 回	日本企業の国際化の発展段階	第 17 回	研究テーマをどのように設定するか
第 3 回	日本的生産方式の特徴と優位性	第 18 回	資料・文献の収集方法（その1）
第 4 回	日本企業のアメリカ進出	第 19 回	資料・文献の収集方法（その2）
第 5 回	日本企業の東南アジア進出	第 20 回	各自の研究テーマの報告
第 6 回	日本企業の中国進出	第 21 回	研究の進行状況の報告（その1）
第 7 回	事例研究—自動車産業（その1）	第 22 回	研究の進行状況の報告（その2）
第 8 回	事例研究—自動車産業（その2）	第 23 回	研究の進行状況の報告（その3）
第 9 回	事例研究—家電産業（その1）	第 24 回	研究の進行状況の報告（その4）
第 10 回	事例研究—家電産業（その2）	第 25 回	研究の進行状況の報告（その5）
第 11 回	事例研究—アパレル産業	第 26 回	研究の進行状況の報告（その6）
第 12 回	事例研究—食品産業	第 27 回	あらためて論文とは何かを考える
第 13 回	事例研究—サービス業	第 28 回	卒業研究予備論文の報告（その1）
第 14 回	研究テーマの設定	第 29 回	卒業研究予備論文の報告（その2）
第 15 回	春期のゼミのまとめ	第 30 回	卒業研究予備論文の報告（その3）

到達目標

テーマを設定し、文献・資料を収集し、論文を作成するための基礎を修得します。研究課題を発見し、これを研究テーマに仕上げ、論文にする作業の基礎を身に付けることを目標とします。これらを踏まえて、卒業研究予備論文を作成し、報告してもらいます。

履修上の注意

病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。

予習・復習

春期は、私が資料、論文等の文献を事前に配布しますので、必ず予習してきてください。報告を全員で分担して、討論します。ゼミ終了後は、一体何を学習したかを、自分で整理・復習してください。

なお、私が配布する資料等の準備状況によって、上記の授業計画の進行に変更が生ずることがあります。後に皆さんとあらためて相談します。

評価方法

春期は、資料・文献などの報告内容、秋期は研究テーマの設定、準備状況、報告内容、卒業研究予備論文によって評価します。成績の70%は、これらに基づいて評価し、残りの30%はゼミへの貢献度などを考慮します。

テキスト

現時点では考えていません。

授業概要

テーマ：マーケティングおよびスポーツマーケティング

この演習は、マーケティングおよびスポーツマーケティングに関する卒論の作成が可能になるように、その準備を行います。

まず、マーケティングとスポーツマーケティングの基礎的な考え方、基本概念を確認した上で、演習参加者がそれぞれ卒論の仮テーマを設定し、それをどう調べてどう論じるべきかについて考えます。

マーケティングおよびスポーツマーケティングの卒論では、個々の事例を深く掘り下げることと同時に、産業全体や消費の動向、環境問題やSDGsなど、社会経済的問題との関連を、多少なりとも考慮しなければなりません。このため、個々のマーケティング戦略だけでなく、マーケティング、スポーツマーケティングのマクロ環境との関係（マクロマーケティング）も考慮に入れる必要があります。

演習参加者は、幅広い社会の出来事に関心を持ち、自分で選んだテーマとの関連を考えていくという姿勢が求められます。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	卒業論文研究テーマ設定検討会（1）
第 2 回	卒論における注のつけ方について	第 17 回	卒業論文研究テーマ設定検討会（2）
第 3 回	卒業論文の仮テーマ設定	第 18 回	研究発表と討論（1）
第 4 回	マーケティングの基本（1）	第 19 回	研究発表と討論（2）
第 5 回	マーケティングの基本（2）	第 20 回	研究発表と討論（3）
第 6 回	マーケティングの基本（3）	第 21 回	研究発表と討論（4）
第 7 回	マーケティングの基本（4）	第 22 回	研究発表と討論（5）
第 8 回	マーケティングの基本（5）	第 23 回	研究発表と討論（6）
第 9 回	マーケティングの基本（6）	第 24 回	研究発表と討論（7）
第 10 回	スポーツマーケティングの基本（1）	第 25 回	研究発表と討論（8）
第 11 回	スポーツマーケティングの基本（2）	第 26 回	研究発表と討論（9）
第 12 回	スポーツマーケティングの基本（3）	第 27 回	研究発表と討論（10）
第 13 回	スポーツマーケティングの基本（4）	第 28 回	研究発表と討論（11）
第 14 回	スポーツマーケティングの基本（5）	第 29 回	研究発表と討論（12）
第 15 回	スポーツマーケティングの基本（6）	第 30 回	基礎演習のまとめ

到達目標

- (1) マーケティングとスポーツマーケティングの基本概念と論点を理解すること。
- (2) 自らテーマを設定し、その内容について自ら調べ、考えることができるようになること。
- (3) マーケティングまたはスポーツマーケティングに関する卒業論文の概要を作成すること。

履修上の注意

- ◎演習への出席は必須です。半期5回以上の欠席は不可です。ゼミへの出席を確約できる学生に限り登録を受付けます。やむをえず演習を欠席する場合は、必ず連絡するようにしてください。
- ◎メール、ワード、パワーポイント、チームズなどの使用は必須ですので、使えるようにしてください。

予習・復習

- ◎事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。
- ◎卒論作成準備のためには多くの時間が必要です。卒論は自分で調べ、自分で書く時間を確保しなければなりません。そうした時間を確保できるようにしてください。

評価方法

- ◎演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度（25%）、演習で出された課題の遂行の状況（25%）、最終期末レポート（50%）によって評価します。
- ◎演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生は、高く評価されます。

テキスト

- テキストは使用しませんが、全体にわたる参考文献は以下の3点です。
- ◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 ― はじめて学ぶマーケティング基礎篇 ―』大月書店、2003年
- ◎薄井和夫『マーケティングと現代社会 ― はじめて学ぶマーケティング応用篇 ―』大月書店、2003年
- ◎中澤真・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017年

授業概要

本ゼミは「財務会計の諸問題に加え、企業が開示する様々な情報に関心のある学生が、卒業論文作成のための基礎知識を習得すること」を目的とする。財務会計の役割は、企業の経済活動を描写して、報告（情報提供）することであるが、まずはその描写の対象となる様々な経済活動を知ることが目標とする。これまでは、3年次には、企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用して財務会計に限定せずに指導してきた。

また、就職活動を考慮するとグループワークによる演習は欠かせないと考えている。そこで、履修者の人数にもよるが、秋期にはグループによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行うように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス・上場企業について	第16回	夏季休業期間中の課題の報告
第2回	上場企業の選択と下調べ	第17回	上記報告を踏まえた課題の討論
第3回	有価証券報告書の概要	第18回	各自の課題に関連する業界研究①
第4回	主要な経営指標①	第19回	各自の課題に関連する業界研究②
第5回	主要な経営指標②	第20回	第20回から第23回は
第6回	沿革	第21回	上記検討を踏まえた資料収集・報告
第7回	事業の内容	第22回	・検討の繰り返し。
第8回	企業集団など	第23回	チームの統一テーマ・章立ての決定
第9回	業績の概要①	第24回	第24回から第26回は
第10回	業績の概要②	第25回	チームレポート作成のための
第11回	対処すべき課題	第26回	資料収集・報告・討論の繰り返し
第12回	事業リスク	第27回	レポートの完成・提出
第13回	秋期のためのテキストの輪読①	第28回	プレゼンテーション準備
第14回	秋期のためのテキストの輪読②	第29回	プレゼンテーション
第15回	まとめと第16回に向けてのガイダンス、夏季課題のガイダンス	第30回	卒論報告会への参加

上記項目は目安であり、進捗により適宜変更・調整する。また、人数にもよる。

到達目標

- ・『有価証券報告書』における「企業の概況」「事業の状況」の記載内容を知る。
- ・自らがテーマを探し、そのテーマについて共同作業でレポートを完成させる。（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し、積極的に討論に参加する。）

履修上の注意

- ・専門演習は卒業までの2年間にかかわるので、登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・ゼミの活動は通常の講義時間以外のキャリアセンター主催の各種講座、学外での活動や懇親会への参加などを含む総合的なものであると考えているため、様々な履修指導を行う。

予習復習

- 予習・春期：各自の選択した会社の『有価証券報告書』の指定部分の報告レジュメの作成。
- ・秋期：テーマに関する報告資料の検索と討論で説明・回答するための内容の検討。
- 復習・春期：報告レジュメに対する討論内容を反映したレポートの作成。
- ・秋期：テーマに対する報告内容についての共著レポートの作成。

評価方法

上記の予習・復習及び報告・討論・レポートの内容などの参加姿勢を加点材料とする。一定程度、達成できたと判断すれば、定期試験は実施しない。

テキスト

春期はEDINETから出力する。秋期は学外主催のレポート提出企画に参加予定であり、送付される小冊子を配布予定である（なお、受講人数が少なければ別にテキストを1冊購入する（書籍未定））。

授業概要

中国経済の歴史と現状についての基本知識を習得する演習である。報告テーマを数多く提供するので、その中から好きなテーマを選び、発表し、質疑応答を行う形式をとる。80年代より高度成長を成し遂げ、経済大国になった中国だが、その経済発展は今後持続可能なのか、資源や環境問題、所得格差問題、少子高齢化問題などをどのように克服していくのか、これらを巡って掘り下げた議論を行っていききたい。

授業計画

第1回	オリエンテーション（演習内容、進め方、評価方法などの説明）	第16回	オリエンテーション（春期の振り返りと秋期の目標設定）
第2回	グローバル経済の中の中国経済①	第17回	中国の人口・労働力・雇用問題①
第3回	グローバル経済の中の中国経済②	第18回	中国の人口・労働力・雇用問題②
第4回	中国の改革開放政策の変遷①実験主義、漸進主義的手法	第19回	中国の「四農」（農業・農村・農民・農民工）問題
第5回	中国の改革開放政策の変遷②鄧小平の「先富論」	第20回	中国の戸籍制度①戸籍制度の成立過程
第6回	「社会主義市場経済」とは何か①「計画」から「市場」へ	第21回	中国の戸籍制度②戸籍制度改革と都市化
第7回	「社会主義市場経済」とは何か②株式制、証券取引所の導入	第22回	中国の戸籍制度③戸籍制度改革と「二重構造」の解消
第8回	「社会主義市場経済」とは何か③国有大企業の地位	第23回	環境問題①現状と対策
第9回	外国投資の役割①資本・技術・経営管理手法の導入	第24回	環境問題②経済大国としての責任
第10回	外国投資の役割②国際収支、雇用への貢献	第25回	エネルギー不足問題と新エネルギー開発の動き
第11回	地域開発と地域格差①	第26回	中国の「走出去」政策
第12回	地域開発と地域格差②	第27回	日中貿易関係
第13回	格差問題の現状と対策	第28回	日本の対中直接投資①中国事業の重要性
第14回	協調的な発展に向けて	第29回	日本の対中直接投資②中国事業のリスク
第15回	春期の内容のまとめ	第30回	秋期の内容のまとめ

到達目標

- 1、要領よくレジュメを作成できるようになる。
- 2、適切なコメントや疑問点を提出できるようになる。
- 3、中国経済に関する基礎知識を習得し、日本との異同点を理解できるようになる。

履修上の注意

- 1、報告内容に関連する補充資料の添付が望ましい。
- 2、報告内容に限らず、中国経済に関する幅広い議論を期待したい。

予習・復習

報告者でなくても予定内容の予備知識を勉強しておくこと。

評価方法

授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況及び報告内容、期末試験を総合して評価する。積極的に議論に参加せず、居眠り、無気力・無関心の履修者はマイナス評価になるので、注意してください。

テキスト

特に使わない。必要に応じて参考書を指示し、プリントを配布する。

授業概要

この演習では、会社の仕組みやあるべき姿そしてコーポレート・ガバナンスの考え方について学びます。卒業後に会社勤めを考えている学生には、是非これらの問題に興味を持って学んでもらいたいと思います。各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	この演習で学ぶこと	第 16 回	日本型資本主義とサラリーマン
第 2 回	日本の会社の現況	第 17 回	終身雇用制
第 3 回	バブル崩壊と景気の低迷	第 18 回	年功賃金制度
第 4 回	リストラの構造的要因	第 19 回	日本的雇用システムの系譜
第 5 回	IT 革命と金融革命	第 20 回	商業資本主義と産業資本主義
第 6 回	法人とは何か	第 21 回	ポスト産業資本主義
第 7 回	株式会社の基本構造	第 22 回	デ・ファクト・スタンダード
第 8 回	法人の存在理由	第 23 回	コア・コンピタンス
第 9 回	株主の有限責任制	第 24 回	有形資産から知識資産へ
第 10 回	コーポレート・ガバナンスとは何か	第 25 回	株主主権論の敗北
第 11 回	コーポレート・ガバナンスの実際	第 26 回	個性的な企業文化を築くこと
第 12 回	日本の会社の特殊性と普遍性	第 27 回	日本的経営のパラドックス
第 13 回	法人名目説と法人実在説	第 28 回	起業家の条件
第 14 回	会社乗っ取りの仕組み	第 29 回	会社の新陳代謝と起業意欲
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

会社の仕組みや、あるべき姿そしてコーポレート・ガバナンスの考え方を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

予習・復習

教科書の指定された箇所を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

- ・教科書名：『会社はこれからどうなるのか』
- ・著者名：岩井克人
- ・出版社名：平凡社ライブラリー
- ・出版年：2009年（ISBN 978-4-582-76677-6）

授業概要

本演習では、近代経済学の手法を用いて経済を分析し、有効な政策を提言することができるようにすることを主目的とする。近代経済学の手法とは、統計的な方法を用いた計量経済学の手法のことである。例えば、経済活動水準が低いときには減税を実施すべきなのか、公共投資を実施すべきなのか。それを的確に判定するためには、現在の経済状況をモデル化する必要がある。

そのため、経済学の理論を習得するとともに、現実のデータを用いて経済分析をするための統計学の方法も駆使できるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	統計モデル解析の方法 1
第 2 回	EXCELの復習 1	第 18 回	統計モデル解析の方法 2
第 3 回	EXCELの復習 2	第 19 回	統計モデル解析の方法 3
第 4 回	EXCELの復習 3	第 20 回	統計モデル解析の方法 4
第 5 回	EXCELの復習 4	第 21 回	統計モデル解析の方法 5
第 6 回	EXCELの復習 5	第 22 回	統計パラメータの考察 1
第 7 回	アドインソフトの使い方 1	第 23 回	統計パラメータの考察 2
第 8 回	アドインソフトの使い方 2	第 24 回	統計パラメータの考察 3
第 9 回	アドインソフトの使い方 3	第 25 回	統計パラメータの考察 4
第 10 回	アドインソフトの使い方 4	第 26 回	統計パラメータの考察 5
第 11 回	アドインソフトの使い方 5	第 27 回	モデル分析の応用 1
第 12 回	必要なデータの収集方法 1	第 28 回	モデル分析の応用 2
第 13 回	必要なデータの収集方法 2	第 29 回	モデル分析の応用 3
第 14 回	必要なデータの収集方法 3	第 30 回	モデル分析の応用 4
第 15 回	必要なデータの収集方法 4	第 31 回	まとめ
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

到達目標

経営や経済のデータを分析するために、的確な統計モデルを構築し、計算結果を解釈することができるようになることが、本講義の到達目標である。幸い、EXCELには多様な統計処理ソフトが組み込まれているので、それらを有効に活用して適切な統計処理ができるようになってほしい。

履修上の注意

パソコンの実習が中心となるので、パソコンの操作（表計算とワープロ）は身につけておいてほしい。ただし、それらは必要条件ではないので、演習で指導をする。しかしながら、そうした受講生は人一倍努力してもらいたい。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

課題の提出状況などを見て判断する。

テキスト

今のところは特定のテキストを指定することは考えていないが、演習の進行状況に応じてこちらから指定することがある。

授業概要

「経営戦略とリーダーシップ」をテーマとする経営学領域の演習。

経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来、リーダーシップを発揮できるビジネスパーソンを育成すべく、戦略について書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは?」、「戦略思考とは?」などを深く探究している。

方法としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論し、グループワークなどを行う。これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の向上を目指す。またリーダーシップの養成を図るためのトレーニングも行う。

授業計画

第 1 回	春期概要：経営戦略の理論を学ぶ	第 16 回	秋期概要：リーダーシップを学ぶ
第 2 回	良い戦略とは？	第 17 回	戦略的思考①
第 3 回	悪い戦略とは？	第 18 回	戦略的思考②
第 4 回	競争戦略	第 19 回	チームビルディング①
第 5 回	5つの競争要因	第 20 回	チームビルディング②
第 6 回	競争優位	第 21 回	ファシリテーション①
第 7 回	価値創造	第 22 回	ファシリテーション②
第 8 回	トレードオフ	第 23 回	意思決定力①
第 9 回	適合性	第 24 回	意思決定力②
第 10 回	継続性	第 25 回	リーダーシップチャレンジ①
第 11 回	事例研究①	第 26 回	リーダーシップチャレンジ②
第 12 回	事例研究②	第 27 回	ビジネスモデルの企画①
第 13 回	事例研究③	第 28 回	ビジネスモデルの企画②
第 14 回	事例研究④	第 29 回	ビジネスモデルの企画③
第 15 回	事例研究⑤	第 30 回	総括

到達目標

- ・ 経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につける
- ・ 理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につける。
- ・ グループワークにおけるリーダーシップを身につける

履修上の注意

- ・ 指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
- ・ 積極的な姿勢・発言を求める。

予習復習

- ・ 発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
- ・ 復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

- ・ プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
- ・ この評価には内容・形式・発言などを含む。

テキスト

授業内で指定する

授業概要

本演習は、経済と経営は相互に不可分との認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体现したものです。

専門演習では、基礎演習で修得した経営学と日本経済の知識を発展させるとともに、卒論のテーマを絞り込み、発表技術や議論の作法もあわせて修得することを目的とします。春期は日本経済の特質を金融業界について考察し、秋期は日本的経営の特質を、代表的な企業家の事例研究を通して考察します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス ー目的、方法、評価等ー	第 16 回	日本的経営の特質(1) ー組織体制ー
第 2 回	銀行の機能(1) ー信用創造機能ー	第 17 回	日本的経営の特質(2) ー人的管理ー
第 3 回	銀行の機能(2) ー金融仲介機能ー	第 18 回	日本の企業家(1) ー三野村利左衛門ー
第 4 回	銀行の機能(3) ー決済機能ー	第 19 回	日本の企業家(2) ー小林一三ー
第 5 回	証券会社の機能(1) ー証券業界の歴史と構造ー	第 20 回	日本の企業家(3) ー石橋正二郎ー
第 6 回	証券会社の機能(2) ー本来業務と付随業務ー	第 21 回	日本の企業家(4) ー松下幸之助ー
第 7 回	証券会社の機能(3) ー証券会社の行為規制ー	第 22 回	日本の企業家(5) ー大野耐一ー
第 8 回	金融政策(1) ー目的と手段ー	第 23 回	日本の企業家(6) ー稲森和夫ー
第 9 回	金融政策(2) ー貨幣経済と実体経済ー	第 24 回	日本の企業家(7) ー小倉昌男ー
第 10 回	金融政策(3) ー雇用と物価ー	第 25 回	研究テーマの概要発表(1)
第 11 回	国際金融(1) ー外国為替市場ー	第 26 回	研究テーマの概要発表(2)
第 12 回	国際金融(2) ー国際通貨体制ー	第 27 回	研究テーマの概要発表(3)
第 13 回	国際金融(3) ー国際金融実務ー	第 28 回	研究テーマの概要発表(4)
第 14 回	現代の金融問題(1) ー金融バブルの発生と崩壊ー	第 29 回	論文作成の手法
第 15 回	現代の金融問題(2) ー金融機関の破綻と再生ー	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

本演習の目標は、基礎演習で修得した経済・経営学の知識を深めるとともに、卒論のテーマに対する履修者の学問的興味を絞り込むことです。分析能力、プレゼンテーション技術、議論の作法等を磨くとともに、研究成果を論文にまとめ上げるための基礎技術を修得します。

履修上の注意

春期は講義を中心にテーマを決めて議論する方式を採用し、秋期は履修者に割り振られたテーマを順番にレポートする形式で演習を進めます。履修者は積極的に演習に参加することが求められますので、レポーターでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが必要となります。より実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行います。

予習復習

春期は復習中心とした知識修得を目指しますが、秋期は全員でテーマに沿って議論を行いますので、履修者は積極的に参加するためにも予習が求められます。

評価方法

春期、秋期ともに毎回の講義ごとに出される課題レポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。

テキスト

テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。

授業概要

論文（特に、租税法論文）の書き方を学びます。文献収集法、各章の書き方、引用の仕方、根拠の提示方法（証明方法）等について、具体例を用いて、具体的に学びます。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、論文作成の前提事項	第 16 回	「第 2 章」(抽象的基準)の書き方の例①
第 2 回	文献収集法	第 17 回	「第 2 章」(抽象的基準)の書き方の例②
第 3 回	通常の論文の構成	第 18 回	「第 2 章」(抽象的基準)の書き方の例③
第 4 回	研究テーマとアプローチ	第 19 回	「第 3 章」(具体的基準)の書き方の例①
第 5 回	立ち位置・事実認定・法解釈	第 20 回	「第 3 章」(具体的基準)の書き方の例②
第 6 回	事実・基準・効果って？	第 21 回	「第 3 章」(具体的基準)の書き方の例③
第 7 回	論文の構成	第 22 回	「第 4 章」(あてはめ)の書き方の例
第 8 回	質の高い論文を作るには？その 1	第 23 回	「終章」の書き方の例
第 9 回	質の高い論文を作るには？その 2	第 24 回	要旨—「論理的に書く」とは？①
第 10 回	「第 2 章」の書き方の例(概説)	第 25 回	要旨—「論理的に書く」とは？②
第 11 回	「第 3 章」の書き方の例(概説)	第 26 回	立法政策論文の書き方①
第 12 回	補足：本質とは？	第 27 回	立法政策論文の書き方②
第 13 回	「序論」の書き方の例	第 28 回	論文のルール—引用・形式等—①
第 14 回	「第 1 章」の書き方の例	第 29 回	論文のルール—引用・形式等—②
第 15 回	「序論」と「問題の所在」を比較すると	第 30 回	まとめ

到達目標

論文の書き方について、法的な思考方法、各章の構成、証明方法（根拠の提示方法）、引用等の技術等をマスターすることが目標となります。

履修上の注意

自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力が鍛えられますので、配付資料を適宜配付します。出席は必須です。欠席及び遅刻については、理由を事前又は事後に先生にメールして下さい（メールアドレスは後日知らせる予定）。税理士を目指す履修生（特に、税法 2 科目免除を狙う履修生）は特に、履修しておくことを勧めます。

予習・復習

毎回予習復習すべき内容を指示します。頻繁に行うテストの成績を重視しますので、毎日の予習・復習に力を入れて下さい。授業時間が 90 分だとすると、この他に、合計 4 時間程度を、自宅等での予習復習（その内容は、[理解・訓練・実行]ことです）に充てて下さい。特に、この授業では、当番を毎回一人決めて、講義のポイントを纏めて、先生に提出（し、全員に配付）するというタスクをゼミ生に順番に（毎回一人ずつ）課す予定です。

評価方法

チェック・テスト、レポート等への配点が 80%、授業での発言、貢献等の積極性が 20%の配点です。

テキスト

なし。すべて教員作成の独自テキストを配付します。

授業概要

本演習の春期は、大企業や中小企業などの海外展開や問題解決手法のプロセスを通して、企業が抱える問題や課題を認識することにより、研究の方向性を決めると共に、研究論文の作成に必要な基本的手法を学ぶことを目指します。また、受講生には2～3名のチームを組んでもらい、事例研究に対するグループディスカッションとレポート作成により、自分で考えて発言する機会を多く設けることで知識の定着に努めると共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とします。

秋期は、研究論文の構成を理解し、各自にて研究テーマの設定、リサーチプロポーザルと調査計画の作成、研究の進行状況の報告など、研究論文の執筆に向けての前段作業を行い、現時点における研究のまとめを作成することを目的とします。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	研究論文の構成
第 2 回	大企業の海外展開	第 17 回	研究論文の構成
第 3 回	大企業の海外展開	第 18 回	研究論文の構成
第 4 回	大企業の海外展開の事例研究	第 19 回	研究テーマの設定
第 5 回	中小企業の海外展開	第 20 回	研究テーマの設定
第 6 回	中小企業の海外展開	第 21 回	リサーチプロポーザル作成
第 7 回	中小企業の海外展開の事例研究	第 22 回	リサーチプロポーザル作成
第 8 回	問題解決手法のプロセス	第 23 回	調査計画の作成
第 9 回	問題解決手法のプロセス	第 24 回	調査計画の作成
第 10 回	問題解決手法のプロセス	第 25 回	研究の進行状況の報告
第 11 回	研究論文作成のイントロダクション	第 26 回	研究の進行状況の報告
第 12 回	資料・文献検索など先行研究の調べ方	第 27 回	研究の進行状況の報告
第 13 回	調査研究における倫理	第 28 回	現時点における研究のまとめ
第 14 回	定性的研究の方法論	第 29 回	現時点における研究のまとめ
第 15 回	ゼミ生の関心事による研究テーマ発表	第 30 回	今後の研究作業に関して

到達目標

- ・ 社会人になった際に要求される、実務レベルでの分析力・問題解決力を身に付けることができる。
- ・ 研究テーマを設定し、研究論文の項目に沿って調査分析することにより、研究論文作成の基礎を修得できる。

履修上の注意

- ・ ゼミ生の人数や進行度合いによっては、変更・調整することがある。
- ・ 演習中は適宜質問や回答するなど、積極的な態度で出席することを望みます。

予習・復習

- ・ 春期は適宜研究論文や文献を配布するので予習してください。事例研究と問題解決手法のプロセスでは、レポートの作成を指示する。
- ・ 秋期は研究のテーマ、リサーチプロポーザル、調査計画、進捗状況は適宜発表してもらうので、各自自分で整理・復習してください。

評価方法

- ・ 成績は、事例研究と問題解決手法プロセスのレポート作成、研究テーマの設定、準備状況、報告内容 70%、演習参加への姿勢・貢献度 30%により評価する。

・テキスト

- ・ テキストや参考文献に関しては、必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

(1) 「経営財務」を基本テーマとするゼミとします。経営財務はファイナンス、財務会計、管理会計の応用分野で、具体的には財務諸表を読み込んで資金計画を立て、銀行借入や株式発行などでの資金調達や会社の予算管理を行うことです。

(2) しかし各自の学生が興味、関心を持ったテーマも尊重し、そのテーマでの研究を深めて4年次で卒業論文を執筆に繋げる路も可能とします。「経営財務」以外では、マクロ経済学、ミクロ経済学、国際経済学、開発経済学、金融論、各種経済政策、各国の経済史、経済学史、医療経済学、病院経営論、世界の医療制度、社会保障論、人口論、労働法、財務分析、経営分析、医学史、歴史の分野での卒業論文指導はできます。ゼミ生が研究テーマを見定め、論文のスタイルに纏めるように指導します。

授業計画

第 1 回	春期ガイダンス：ゼミの進め方の説明	第 16 回	秋期ガイダンス：卒論執筆への準備
第 2 回	準備、企画、発想、情報収集	第 17 回	情報整理、論旨構成、文章ルール
第 3 回	各自の関心を明確にし、資料を集める	第 18 回	論文構成を構築（研究目的、研究方法）
第 4 回	テーマを絞り込んでいく	第 19 回	研究の進捗状況の報告 1
第 5 回	資料・文献を収集し、発表報告する 1	第 20 回	研究の進捗状況の報告 2
第 6 回	資料・文献を収集し、発表報告する 2	第 21 回	研究の進捗状況の報告 3
第 7 回	資料・文献を収集し、発表報告する 3	第 22 回	研究の進捗状況の報告 4
第 8 回	資料・文献を収集し、発表報告する 4	第 23 回	研究の進捗状況の報告 5
第 9 回	資料・文献を収集し、発表報告する 5	第 24 回	研究の進捗状況の報告 6
第 10 回	資料・文献を収集し、発表報告する 6	第 25 回	研究の進捗状況の報告 7
第 11 回	資料・文献を収集し、発表報告する 7	第 26 回	研究の進捗状況の報告 8
第 12 回	資料・文献を収集し、発表報告する 8	第 27 回	研究の進捗状況の報告 9
第 13 回	資料・文献を収集し、発表報告する 9	第 28 回	研究の進捗状況の報告 10
第 14 回	資料・文献を収集し、発表報告する 10	第 29 回	4年生の卒論報告会への参加（予定）
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

・大学時代の自分の研究テーマを検討し、研究対象、研究目的、研究方法を絞り込んで、卒業論文執筆の準備を行います。

履修上の注意

- ・演習は参加型の授業スタイルなので、毎回出席し、積極的に発表、発言、質疑応答、議論をしてください。
- ・2021年4月に大学着任予定。教員情報はインターネットでキーワード「福永肇」で検索してください。

予習・復習

- ・予習や復習では毎回、専門用語がたくさん出てきます。その日から自分のボキャブラリーとして使ってください。
- ・予習は、私が配布した資料、論文や、自分で検索した文献を読み込み、ゼミで分担発表や討論をします（予習していなければ、発表や討論が出来ません）。
- ・復習は、ゼミでの発表や討論を通じて広がった知見や見識を整理・復習し、次の発表に反映、展開させます。

評価方法

- ・春期は①資料や文献などの報告発表、討論での積極性の評価（70%）と②ゼミへの貢献度（30%）
- ・秋期は①各自のテーマ（⇒4年次の卒業論文テーマ）の設定、準備、研究進行状況、報告内容への評価（70%）とゼミへの貢献度（30%）

テキスト

現時点ではテキストに以下を考えていますが、4月に埼玉学園大学着任後、このゼミを履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めたいです。関連資料や文献コピーは配布します。

- ・『『専門家』以外の人のための 決算書&ファイナンスの教科書』、西山茂著、東洋経済出版社、2019年刊

授業概要

この演習は、データサイエンスの実践的事項を学ぶことを目標とします。データ収集・分析・構造理解と価値創造という一連の流れからなるデータサイエンスは、分析の実践的な手順や準備の仕方・代表的な分析手法を理解し、課題に合わせて適切な手順や手法を用いることが必要です。また、出力される数値や法則に基づく構造理解と価値創造ということを実に理解しなければ、役に立つ分析とはなりません。この演習では、これら実践的なことを学びます。4年次には AI の利用へと進みますが、そのときもこの専門演習での学習内容が基礎となります。

授業計画

第 1 回	春期ゼミオリエンテーション	第 16 回	秋期ゼミオリエンテーション
第 2 回	統計分析ソフト R (仕組みと使い方)	第 17 回	各種クラスター分析 1
第 3 回	R によるデータ処理 1	第 18 回	各種クラスター分析 2
第 4 回	R によるデータ処理 2	第 19 回	各種クラスター分析 3
第 5 回	R によるデータ処理 3	第 20 回	グループ研究と卒業研究について
第 6 回	データサイエンス概論	第 21 回	ニューラルネットワーク 1
第 7 回	データ分析の基本	第 22 回	ニューラルネットワーク 2
第 8 回	アソシエーション分析 1	第 23 回	ニューラルネットワーク 3
第 9 回	アソシエーション分析 2	第 24 回	ニューラルネットワーク 4
第 10 回	決定木分析 1	第 25 回	テキストマイニング 1
第 11 回	決定木分析 2	第 26 回	テキストマイニング 2
第 12 回	決定木分析 3	第 27 回	テキストマイニング 3
第 13 回	決定木分析 4	第 28 回	グループ研究の成果発表
第 14 回	ランダムフォレスト 1	第 29 回	卒業研究の進め方
第 15 回	ランダムフォレスト 2	第 30 回	卒論テーマ発表

到達目標

データサイエンスについての理解を深め、実践的な分析ができるようになる。

履修上の注意

欠席や遅刻をすると、学習内容がだんだん分からなくなってきました。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。メールアドレスはオリエンテーション時にお伝えします。また、グループ学習の形を取りますので、各自が自覚をもってグループの運営に取り組んでください。

予習・復習

予習：テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。レポーターになった人は皆に説明できるように事前の学習を進めてください。

復習：学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

評価方法

ゼミへの貢献（学習への積極的関与）40%、グループ研究への貢献60%で評価します。

テキスト

オリエンテーション時に指定します。

授業概要

この授業は、ICT（情報通信技術）を学び、それを企業経営や経営管理に生かしていく上で、最近、注目されているいくつかの技術の事例を含めて、学習し習得することを目標としている。近年、注目されている技術としては、AI(人工知能)とブロックチェーン技術がある。この2つを中心にその理解と活用方法を学び、事例を紹介しながら、社会における使用状況を知る。また、AI(人工知能)とブロックチェーン技術により、社会や個人の生活がどのような変化が生じ、未来の展望を考えたい。

授業計画

第 1 回	AI(人工知能)の理解ー1	第 16 回	ブロックチェーン技術とは
第 2 回	AI(人工知能)の理解ー2	第 17 回	暗号資産との関係
第 3 回	AI(人工知能)の理解ー3	第 18 回	暗号資産の種類
第 4 回	AI をクラウド環境で使う	第 19 回	ブロックチェーン技術の可能性
第 5 回	クラウドコンピューティングの理解	第 20 回	ブロックチェーン技術の課題
第 6 回	クラウドコンピューティング演習 1	第 21 回	ブロックチェーンの活用 1
第 7 回	クラウドコンピューティング演習 2	第 22 回	ブロックチェーンの活用 2
第 8 回	クラウドコンピューティング演習 3	第 23 回	ブロックチェーンの活用 3
第 9 回	データサイエンス入門 1	第 24 回	社会におけるブロックチェーン技術 1
第 10 回	データサイエンス入門 2	第 25 回	社会におけるブロックチェーン技術 2
第 11 回	AI(人工知能)の演習 1	第 26 回	社会におけるブロックチェーン技術 3
第 12 回	AI(人工知能)の演習 2	第 27 回	ブロックチェーンの活用演習 1
第 13 回	AI(人工知能)の演習 3	第 28 回	ブロックチェーンの活用演習 2
第 14 回	発表	第 29 回	発表
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

この授業は、ICT（情報通信技術）を学び、それを企業経営や経営管理に生かしていく上で、最近、注目されているAI(人工知能)とブロックチェーンの技術の事例を含めて、学習し習得することを目標としている。

履修上の注意

前半は、座学を中心に AI の知識を深める勉強をします。後半は、演習を取り入れて学習しますので、ノート PC またはタブレットを使用することになります。

予習・復習

各講義の内容について事前事後に自分でインターネットや本を基に学習することが望ましい。

評価方法

演習時間での参加や積極的な発言とレポート提出及び演習の成果発表などで評価する

テキスト

別途、連絡する